

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスの意義を確認した上で、なじみの環境なじみの人間関係が大切であると考え「なじみの関係を大切にする」との理念をつくりあげている。また、地域になくはない施設を目指し、地域になじみのある生活やその人らしい生活が継続できるよう支援している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念に基づいたスローガンを掲げ、毎朝の申し送り時に唱和し、ケアの根本にあるものとし、日々確認している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>そうあるべきだと開設当初から考えており、昨年以前から入居されている当該市町村以外の方々でも馴染んだ地域になるよう心がけてきた。ホーム周辺では日常生活上の活動として体言し、更なる地域への浸透に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>キャラバンメイトや介護家族と施設職員の相互参加型講座を活用し、地域に向けての認知症に対する理解や対応に関しての講習にも取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日々の洗濯干し時や散歩時に近所の方と声を掛け合ったり、夏祭りなどの行事の際、近隣の方にも参加を呼びかけている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近所の市民会館で行われるフォーラムなどに積極的に参加している。また夏祭りには、地元の高校の生徒にボランティアで参加してもらおうなどの交流がある。</p>	<p>○</p> <p>もっと積極的な地域との関わりをとり、地域防災マップの作成や災害時にも助け合える環境に取り組んでいきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	キャラバンメイトの講習を受けた職員もおり、地域社会における認知症高齢者の暮らしを支援する事に努めようとしている。	○	講習で得たこと、又、事業所での実践内容をふまえて、地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会等を行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。前回の外部評価の結果を受け、パンフレットに理念をわかりやすく提示するなどの努力をしている。	○	ホームオリジナルの自己評価もしたりしているが、評価をする上での行動指針や判断基準を明確にし、質の向上の本質にもっと取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、事業所の取り組みを報告すると共に、様々な意見をもらうようにしている。	○	会議委員の方々にも更に地域密着型グループホームとして、入居者、家族、地域に対して私たちができること、していくべきことを柔軟に提案してもらえよう、事業所と共に深く考えていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所からの相談事で何うことあるが、まだまだ市の担当との行き来は少ないのが現状である。	○	地域密着型サービスの意義を共に考え、サービスの質の向上に繋がるよう話し合っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議の構成員に権利擁護事業や成年後見制度に詳しい方がおり、管理者や一部の職員は説明を受けている。	○	全職員及び、家族を対象に講習会を開くなど、学ぶ機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では虐待の事実はないが、他の施設での虐待の報道を聞いた際に、事業所内で見過ごされていることはないかと話し合い注意を払い防止に努めている。	○	高齢者虐待防止関連法について、全職員を対象とした講習会を開くなど学ぶ機会をもちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書や重要事項説明書の内容を時間をとって丁寧に説明し同意を得るようにしている。</p>	○	事業所からの説明ばかりではなく、家族からの必要最低限の情報以外に家族内での詳細な情報(問題ごとや懸念すべきこと)もあらかじめ伝えてもらえるような対応に心がけたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が何らかの不安や不満を抱いていると感じた時は職員と利用者1対1の時間を作り思いを聞くようにしている。また、カンファレンスで解決策を話し合っている。</p>	○	利用者が一度かかえた不満に解決を試みているが、解消されたところで二度と同じ事で同じ状態にならないよう、職員が変わっても情報を共有できるようにしたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当者より、利用者の暮らしやエピソード、健康状況などを書いたサマリーを送付している。何らかの変化が起きた時はその都度報告している。金銭についてはおこづかい帳に記入している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設入り口には意見箱を設け、無記名で意見、不満、苦情を受け付けると共に運営推進会議の構成員に身近な苦情申し立て窓口になっていただいている。</p>	○	面会時や家族会等で常に問いかけ、何でも気軽に言ってもらえる雰囲気づくりを心がけているが、さらに職員に気を使うことなく家族同士で話し合える時間を提供したい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の申し送りも時間をかけ様々な意見や思っていることを聴きだせるようにしている。また、毎月1回の職員会には全職員が参加し自由な意見が発言できる。</p>	○	職員にも更に意見が持てるような様々な研修や講習で学ぶ機会を多く持っていきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>24時間体制で介護ができる勤務体制を確保している。職員の急病や急な休みの時は可能な限り職員同士で交代し対応している。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>個人的な理由でやむを得ず離職する場合は、他の職員が常に気を配り利用者には不安を与えないようにしている。</p>	○	一定のサービスを提供するにあたり、利用者にも与える環境の変化で人・物・場所の中で人が一番左右されやすい原因と考えており、職員には常々利用者のことを考えられるよう、離職に対して更に対策を考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人からリーダーまで段階を踏んで階層的な研修を考えている。現在はチームの構築としてチーム内におけるそれぞれの立場や役割をこなしてもらっており、毎月の会議でチームの成果として研修や事例発表をしている。	○	新人研修に関して身につく研修に取り掛かっていきたい。OJTの目指すところを知識・技術として持ってもらえるよう、リーダーの研修にも力をいれていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は日頃から同業者と交流を持ち、情報交換をしている。また相互評価も受け、共にサービスの質とは何かを考えていけるようにしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスとは何か、何で解消できるのか考えるようにしており、個人に合わせた対応には心がけているが、管理者に直接伝えることがストレスということもあつたりと、極力チームのリーダーが対応できるようにし管理者は状況を考え職員のストレス軽減に心がけている。運営者は慰労会の場なども提供している。	○	運営者にも職員の抱えるストレスの理解をもっと持ってもらえるよう、そういった環境にもしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	把握と努力に努めて評価している。	○	職員が更に力をつけていけるよう、新しい取り組みも必要である。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設内の見学や体験入所を気軽に利用してもらっている。また、来所や訪問で家族の前では話にくい内容も聞き出すよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来所や訪問による家族のみでの会話をするにより本人の前では話にくい内容も聞き出すよう努め、家族の希望や不安な面をゆっくりと聞くようにしている。	○	初期には聞き出しにくい事柄もたくさんあるので、そういった情報提供もしてもらえるよう、既に利用されている家族も巻き込み取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が気付いていない要望もあり、本人、家族との話し合いや生活状況等からそれを導き出し他のサービスも含めた支援を行えるよう努めている。	○	家族からの支援にも繋がるように考えていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の見学や説明から施設の様子を分かって頂き、家族、本人の要望やこれまでの生活状況から施設に馴染める環境づくりを相談、納得がいくまで何回でも見学や説明、相談を行っている。また、体験入所を実施しており、それによって本人に決めて頂いている。	○	施設が初めてという方も多く更に十分な説明と、体験入所とは別に施設で食事を味わっていただいたりレクリエーションを楽しんでいただくなどの事柄を行っている。更に地域になくてはならない施設を目指し、常々地域への啓蒙や利用する前からホームに立ち寄りてもらえるような運営に更に取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は全員人生の先輩との気持ちを職員が共有し、昔の事または得意な事を教えてもらっている。	○	あくまで管理者が考えるには、人生の先輩という思いだけでは万人には通用しないと思うため、なぜ今サービスを受けているのかということから考え、その人という人権や尊厳を理解したり見極めたりすることを基本とし、共に支え合える環境を更に目指したい。介護の基本をもっと大切にしたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	必要な時に必要なものを協力してもらっている。また、家族会や面会時、月1回のお便り等で近況を報告し、利用者の視点を持ってもらいホームでの生活を利用者と共に感じ、支援もしてもらっている。	○	家庭環境もあり、家族が遠距離に住んでいる高齢である等の利用により面会が少ない利用者もあり、手紙や電話で本人の日常をお伝えし家族と共に本人を支えていく関係を築いているので、全家族にも共に利用者を支えていくという考えの理解にも取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人の状況により外出や外泊を勧めたり、行事に参加していただきよりよい関係の継続に努めている。また、近況を職員からの手紙や写真で伝えている。	○	面会時や家族会などの機会に利用者や家族一緒の写真を撮すようにしているが、さらに続けていきたい。また、職員の取り組みや利用者の思いも十分に伝えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者には気軽にまた来ていただくよう声かけをしたり、一緒に外出も提案している。キリスト協会の礼拝を定期的に続けている利用者もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が楽しく過ごせるよう、常に職員が見守るようにしている。トラブルの時は職員が間に入り、両者の言い分を平等に聞いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了した後もなじみの関係を大切にしている。要望があれば、情報の提供もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人の希望や意向を把握するように努めている。困難な場合には表情や態度から推し測っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を基に、家族面会時など、以前の暮らし方を聞きとり把握に努めている。	○	把握していると思っているが、利用者における課題が出てきた場合に思い起こすことが難しいときがあるので、利用者の詳細な経過の資料作りにも取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	経過記録、申し送り、カンファレンスなどで現状を総合的に把握している。また、心身ともにどのような状態なのか把握するよう努力している。	○	一日、毎週、毎月、三ヶ月、一年前、入居した時と比べて、と経過を把握するようにしているが、現状の状態に重きを置いてしまうので、客観的な視点も忘れずに取り組んでいけるよう対策を考えていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送り、週1回のカンファレンス、サービス担当者会議、月1回のヘルパー会などで話し合い、必要に応じて看護師、調理師、主治医の意見を取り入れて介護計画を作成している。	○	計画作成者は利用者を交えての担当者会議にも取り組んでいきたいともあり、本来のあるべき姿になるよう全職員を踏まえ取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に応じて介護計画の見直しや行動計画の変更を行っている。また、逆にできるという可能性のある場合にも追加項目として増やしている。	○	更に職員一人ひとりに介護計画の意味と重要性の理解を深め、本人の変化に応じた介護計画の見直し作成に取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事量・バイタル・排泄や入浴状況は個人記録、くらしの様子やエピソードは経過記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。	○	記録の書き方に関しては全職員で更なる工夫も必要ではあると思う。記録は最も重要なものとして形に残るが、職員の負担にもならないように考えていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、利用者の健康状態に合わせた細やかな対応ができる。また、要望に応じて通院やリハビリの送迎にも対応している。	○	管理者は認知症介護指導者養成研修を終了したので、地域や家族、利用者に対してもいろいろなことが話し合える場や勉強会ができるように努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	事業所の周りには、市民会館、図書館、警察、高校、ショッピングセンターなどが点在している。夏祭りなどの行事の時には地元の高校生にボランティアで参加してもらったり、敬老会には中学生から手紙をもらったり、返したりの交流がある。	○	いろいろな機関と交流もあるが、なぜ交流が必要なのかという視点を忘れず、互いに一方的な交流とならないように配慮し共に支えあえる関係の構築に更に努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	基本的に入居となるため、入居前に利用していたサービスのケアマネジャーや退居後のサービス事業者との情報提供に努めている。本人や家族の希望により出張美容室を利用したり、牛乳やヤクルトの訪問サービスを利用する利用者もいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ協働には至っていない。	○	(認知症含む) 地域の人たちに柔軟な対応が取れるよう包括支援センターと協働できるよう互いに取り組んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、主治医の往診を受けている。また、複数の医療機関との連携もあり、必要に応じて受診している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が心療内科専門であるので、認知症についての詳しい助言や指示をもらう事ができる。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理を把握した支援を行うことができる。また、急な変化については24時間気軽に相談できる体制にある。	○	他施設に訪問し、健康管理でどのような対策をしているのか伺ってみたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には職員が頻繁に見舞い、家族との連携をとり病院側との情報を密にし、退院した時に安心して暮らしてもらえるように努力している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年の11月に重度化した場合や終末期の過ごし方について家族と職員で話し合う機会をもち、アンケートにより現在の率直な意志を確認させていただいた。	○	その時が来るまで分からないだけではなく、いずれは訪れることとして現在の安心感だけではなく家族内で考え続けて、ホームや主治医と状態や希望に沿った対応が全利用者にできるようにしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合には主治医によく相談し、家族の要望を聞きながら利用者がよりよい生活を送っていただくよう取り組んでいる。	○	同上
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	要望に応じて情報交換を行い、よりよい生活をしていただけるような支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な言葉遣いを心がけている。排泄介助時はできるだけ目立たず、さりげない介助を心がけている。また、外部からの問い合わせには十分注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	たえずコミュニケーションをとり、希望や嗜好を把握した上で本人が自己決定できるように働きかけている。耳が聞こえにくい利用者には大きな声でゆっくりと体を使って表現している。	○ 利用者の残存能力を無意味に奪ってしまうことがないよう、本人本位の考えが実行できるよう支援している。また、状態が落ちても機能が回復できるよう、自己決定を大切にしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間など基本的な共有する時間はあるが、その他の時間はホールでテレビをみたり、居室でくつろいだり自由に過ごしていただいている。希望があれば買い物や散歩にも付き添う。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日着る服は基本的に自分で選んでもらう。自己決定が困難な利用者においては職員が付き添い一緒に選ぶ様になっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備や食事の後片づけなどを一緒に行っている。ご飯のかたさもできるだけ一人ひとりの好みに合うように配慮している。	○ 利用者に献立をたててもらったり、買い物に行ったりしてもらえるよう取り組みたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこについては職員があずかり、希望に応じて屋外で吸っていただいている。いすど灰皿を用意し、ゆっくりと楽しめるよう配慮している。	○ お酒については現在希望する利用者はいないが、健康上に問題がなく、本人に希望があれば、家族とも相談して対応したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表のパターンを把握し、時間をみてトイレ誘導するなどの支援をした結果、日常はリハビリパンツから下着のみで快適に過ごせるようになった利用者もいる。	○	放尿、放便される方に対しての適切な支援が見出しにくいこともあり、様々な視点から対応や理解を図っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日や時間は決まっているが、希望に応じた対応もしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、日中の活動を促したり昼寝を取り入れたりして、夜は安眠できるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の得意分野に応じた役割を持つことにより、日々の生活に張り合いがもてるように支援している。	○	ホーム内は限られた空間ではあるが、現状で私たちが気づいていない利用者にはできることや役割などを見つけることも必要である。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に応じて、自分で所持していたり、事務所で預かっている。お金をつかった後は本人の前でお小遣い帳に記帳している。	○	本人自ら電卓を使って残金を計算したり、お小遣い帳に記帳してもらうなど取り組みたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭の畑で育てている季節の野菜の収穫を楽しんだり、2～3人で散歩をしたり、調理の買い出しに出かけている。	○	職員の判断で夏や冬は外出が減ってしまっていることを改善していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望により、病気の回復祈願に定期的に千羽鶴を折ってお参りに行っている。	○	定期的に連れ出してくれる家族もいるが、他の家族にもそのような取り組みや思いを感じてもらいたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち、自由に電話をかけている利用者もいる。また手紙のやり取りを楽しんでいる方もいる。	○	全利用者による年賀状や暑中見舞いなどを出す習慣を支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	さわやかな挨拶を心がけている。ホールや居室など好みの場所で会話を楽しんでもらっている。	○	稀にある面会謝絶の家族等の情報も家族から適切にホームに伝えてもらいたいこともある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の必要性を学び、取り組んでいる。	○	カンファレンスやヘルパー会で「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について学習し、いかなる場合においても身体拘束をしないケアを再認識していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関にはかけないことを原則とし、利用者が自由に出入りできるようになっている。チャイムにより利用者の出入りに気づき、さりげなく見守っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録などの事務作業は利用者の様子を把握できるようにホールで行っている。日中居室で過ごされている方の様子もそれとなく伺う。夜間も同様、数時間ごとの決まった時以外にも巡視している。	○	先日報道された外出先の事故もあり、外出時においても必ず目の届く範囲や人数で確認している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて危険と思われるもの以外にも、補聴器やめがねなど高価なものや、無くしては困るものは、事務所で保管している。	○	状況は日々変化していくと思われるので、その時に応じて対処し注意物・危険物を全職員で話し合い見極めていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットノートを作り、状況等を詳しく記入し、全職員が共有した認識をもつようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	個々に合った急変時の緊急処置マニュアルを作成し、全職員が把握に努めている。応急手当や初期対応の訓練は実施できていない。	○	応急手当や初期対応の訓練を早急に実施したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作り、年1回避難訓練を行っている。また、災害時に備えて、年に数回炊き出しの訓練を実地している。	○	地域の住民とより良い関係を作り、避難時により早く対応できるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	加齢に伴いリスクも高くなるが、持っている能力を発揮して、その人らしい生活をしていただく事を重要視している。その旨、家族にも説明している。	○	家族にリスクを伝えると過度に心配されたりすることもあり、家族に対しての介護等の講習会も必要だと思い取り組んでいきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の普段の状態を把握しており、顔色や様子、食欲等から異変の発見に努めている。気づいた時にはバイタルチェックを行い、管理者に報告、場合により受診する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の投薬内容は個人別にファイルしており、全職員が把握に努めている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬できているか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材を工夫したり、毎日少しでも運動をレクリエーションに取り入れたり便秘傾向の方には腹部マッサージや水分量を多くし対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き・口腔ケアの声かけや介助により実施している。利用者と職員を対象に連携している歯科医による口腔ケアの講習会も行っている。	○	年1回の口腔ケアの講習会を継続して行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々に合わせた栄養バランスを考え、量を調整している。水分も水分チェック表を作り1日に必要な水分量を摂取できるよう努めている。	○	全職員を対象に勉強会を開き、栄養バランスについてさらに学んでいきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成し全職員で把握に努めている。職員、利用者全員がインフルエンザの予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアル及びチェック表を作り消毒を毎日徹底している。冷蔵庫の扉の中に入っている食材の賞味期限を記載している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に季節の花を植え、利用者と一緒に育てている。通りかかった人が気軽に一息つけるよう、木のベンチも用意している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の花を飾り、壁面には季節ごとの利用者の作品や写真を飾り、季節を目で感じてもらえるよう取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビや新聞を用意し、ソファーや小テーブルを置いて自由に過ごせる工夫をしている。また、畳の和室もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた好みの家具を置いたり、なじみの小物を飾り、家庭的な雰囲気工夫している。	○	居室はもっと個性的になってもいいとは思う。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	悪臭の元になるものはすばやく処理し、適時換気に努めている。また、温度計を目に付くところに置き温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に応じてベッドの高さを調節している。手すりも必要最低限の箇所に設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のドアに利用者自身の写真を貼ったり、浴室にはのれんをかけひとめでわかるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑を作り、手入れや収穫を楽しんだり、玄関先にはプランターに花を植え、水やりをして季節を感じている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

カンファレンスに基づいた課題点について、月1回のヘルパー会で研究発表を行い全職員が共通した介護目標を持ち、よりよい介護サービスに取り組んでいる。また、日頃より修正点や考え続けるべきことを見出し、継続的なモニタリングに取り組んでいる。夏祭りには近所の民謡クラブの慰問、地元の高校生のボランティアの参加などあり地域交流に努めている。